

このままでいいのか、ODA どうする、NGO



上 = 世銀の支援で作られたバクムンダムの水門開放を求める漁民
下 = バクムンダムのあるムン川で仕掛け漁をする漁民
(©メコン・ウォッチ)

日本のODA（政府開発援助）が、「国際協力」の名分とは裏腹に、再び経済権益を中心とする国益追求路線に明確に舵を切っています。自国の利益追求ではなく南北格差是正と国際連帯のODA、経済中心主義ではなく持続可能な社会のためのODAを——NGOは長年こう主張し、政府への働きかけを行ってきました。ODAがこのままでいいはずはありません。ODAが依拠する経済成長主義をNGOはどう打ち破れるのか。官僚主導から政治主導への掛け声が上がるいま、ODA政策の意思決定にNGO・市民／社会運動の意見を反映させるようにするためには、どんな仕組みが必要なのか。ODA見直しの抜本的課題をNGOの視点から考えます。

- 日時 2010年6月6日(日) 午後2時～5時
(予約不要／参加費=資料代500円)
- 場所 法政大学市ヶ谷キャンパス ポアソナード・タワー
(富士見校舎正門を右へ右手の高層建物) 26階 A会議室
(アクセス右記参照/地図 www.hosei.ac.jp/hosei/campus/annai/chigaya/access.html)

- 発言
 - ♡ 満田夏花 (メコン・ウォッチ)
「複製される成長神話とODA～NGOの果たす役割」
 - ♡ 村井吉敬 (早稲田大学アジア研究所教授)
「官僚主導から政治主導へ～だれに対してなにを提言するのか」

【主催】〈NGOと社会〉の会(お問い合わせは下記事務局まで)

【共催】法政大学国際文化学部



法政大学市ヶ谷キャンパス
東京都千代田区富士見 2-17-1
JR/地下鉄 飯田橋・市ヶ谷駅各徒歩約10分

〈NGOと社会〉の会とは

〈NGOと社会〉の会は、NGOが直面する問題を社会の課題として発信し討議する場として『国家・社会変革・NGO』（新評論刊）の書き手たちが発足させた会です。2007年の発足以来、シンポジウムやトーク・インの開催、ニュースレターの発行を通じてNGO活動の自己検証や問題提起を続けています。楽観的なNGO称揚論の時代が去り、急速に変化する世界の中でNGOがその存在意義を不断に問われ続ける中、「できるだけ本当のことを言おう!」をモットーに〈NGO〉と〈社会〉への問いかけを行っています。

● 代表：藤岡美恵子 ● 事務局連絡先：新評論編集部内 〈NGOと社会〉の会 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 3-16-28 (株) 新評論 TEL 03-3202-7391 / FAX 03-3202-5832

〈NGOと社会〉の会 がたずさわった本 (新評論刊)

- 国家・社会変革・NGO**
政治への視線/NGO運動はどこへ向かうべきか
「生きた社会運動」のための備忘録!
藤岡美恵子・越田清和・中野憲志=編/執筆者：李姫子、下澤嶽、高橋清貴、サラ・リスター (A5上製 334頁 定価3360円)
- 制裁論を超えて**
朝鮮半島と日本の〈平和〉を紡ぐ
私たち自身の植民地主義を見つめ直し、連帯の思想を紡ぎ直す!
中野憲志=編/執筆者：藤岡美恵子・LEE Heeja・金朋央・宋勝哉・寺西澄子・越田清和 (四六上製 290頁 定価2730円)